

介護施設入所者の急性期病院への入院状況調査  
～予防可能な入院、予防不可能な入院、病院内の死亡～

研究成果のポイント

1. 介護老人福祉施設と介護老人保健施設の入所者別の急性期病院への入院率とその内訳に関するデータが初めて得られました。
2. 介護施設の入所者の入院という医療介護連携の重要事項について、わが国初のエビデンスが得られました。
3. 今後予定されている全国レベルでの介護データベースの公開後の研究が進むきっかけとなることが期待されます。

筑波大学ヘルスサービス開発研究センター 田宮菜奈子センター長/教授、Boyoung Jeon客員研究員(2017年常勤研究員、現在は韓国ソウル大学保健環境研究所)らは、東京大学、東京都健康長寿医療センターとの共同研究により、千葉県柏市の医療レセプトと介護レセプトのデータを照合(突合)して分析しました。

分析の結果、介護老人福祉施設の入所者は、介護老人保健施設の入所者に比べて、全体の入院率と予防可能な入院率が高いことが判明しました。すなわち、介護老人福祉施設の入院率は34.5%、介護老人保健施設の入院率は23.8%で、予防可能な入院も介護老人福祉施設では16.3%、介護老人保健施設では9.5%でした。

本研究により、医療レセプトと介護レセプトのデータの突合データにより、臨床的ニーズに基づく仮説分析が可能で、医療介護政策に資する貴重なエビデンスが得られることがわかりました。

本研究成果は、Geriatrics and Gerontology Internationalに2018年8月15日付で公開されます。

本研究は、AMED平成29年度長寿科学研究開発事業(17dk0110026h0001, PI:田宮)、2016年度医療科学研究所研究助成(Boyoung Jeon)を受けて実施されました。

研究の背景

医療・介護の連携は、地域包括ケア推進政策において、喫緊の課題となっています。しかし、その実証研究はまだ緒についたばかりで、エビデンスの蓄積はこれからです。一方、利用者が増大する介護サービス・特に施設ケアの質の評価も重要課題となっています。特に、急性期病院への入院は、高齢者、それも介護施設に入所している人の障害および認知低下のリスクを増加させることが明らかになっています。そのため、入院を減らすことは、生活の質を向上させ、入所高齢者の医療費を削減することにつながると考えられます。

## 研究内容と成果

本研究は、上記の課題に応えるべく、千葉県柏市の医療介護連結レセプトデータを用いて、介護施設から急性期病院への入院率、および入院の理由(予防可能な入院、予防不可能な入院、病院内の死亡)とその関連要因を明らかにすることを目的に実施しました(図1参照)。

分析データは、千葉県柏市における後期高齢者の医療記録データと介護レセプトデータ(2012.4-2013.9)を用いました。「介護老人福祉施設(特養)」(n=1,138)と「介護老人保健施設(老健)」(n=885)の入所者 2,065人(75歳以上)が分析対象となります。予防可能な入院は、American Centers for Medicare & Medicaid Services (CMS)の先行研究を参考に、呼吸器感染症、尿路感染症、心不全、じよくそう等の17疾病で定義しました。

施設種類別に施設入所者の急性期病院入院率は、介護老人福祉施設において34.5%であり、その内訳は、予防可能な入院16.3%、予防不可能な入院12.2%、病院内の死亡6.1%でした。一方、介護老人保健施設の入院率は23.8%であり、内訳は、予防可能な入院9.5%、予防不可能な入院10.6%、病院内の死亡3.7%でした(表1参照)。利用者の状況などを考慮した多変量解析の結果では、人工栄養ありの場合に予防可能な入院のリスクが高いことがわかり、また、2種類の施設間の差も有意でした。

予防可能な入院は、在宅や施設など地域ケアの質の指標(Quality Indicator)として重要です。介護老人福祉施設よりも、医療体制が充実している老人保健施設の予防可能な入院比率のほうが少ないのは、医療資源投入の効果と考えられます。しかしその一方で、介護老人福祉施設における医療対応には検討の余地があると考えられます。

本研究では、介護レセプトと医療レセプトのデータを照合(突合)させることにより、介護施設の入所者の入院という医療介護連携の重要事項について、わが国初のエビデンスが得られました。本成果は、今後、全国レベルの介護データベースの公開に向けた、最初の研究事例となりました。

## 今後の展開

介護老人福祉施設の入所者は、施設で長い滞在となっているものの、医療系スタッフには限りがあり、適時の医療サービスを受けにくくなっている可能性があります。それに対して介護老人保健施設の入所者は、施設内で治療を受けているため救急期入院率が低い可能性が考えられます。本研究結果が、今後公開が予定されている全国レベルでの介護データベースの研究が進むきっかけとなることが期待されます。

## 参考図

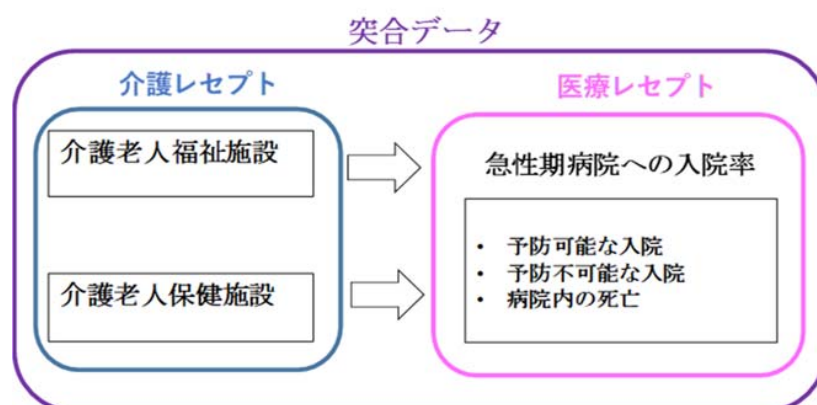


図1 研究モデル

表1 施設種類別に見た施設入所者の急性期病院入院率の内訳

施設種類	急性期病院入院率	予防可能な入院	予防不可能な入院	病院内の死亡
介護老人福祉施設	34.5%	16.3%	12.2%	6.1%
介護老人保健施設	23.8%	9.5%	10.6%	3.7%

**掲載論文**

【題名】 Potentially avoidable hospitalizations, non-potentially avoidable hospitalizations, and in-hospital deaths among residents of long-term care facilities

(介護施設長期入所者における予防可能な入院、予防不可能な入院、病院内の死亡)

【著者名】 Boyoung Jeon, Nanako Tamiya, Satoru Yoshie, Katsuya Iijima, Tatsuro Ishizaki

【掲載誌】 Geriatrics and Gerontology International

**問い合わせ先**

田宮 菜奈子 (たみや ななこ) 教授

筑波大学医学医療系ヘルスサービスリサーチ研究室

〒305-8572 茨城県つくば市天王台1-1-1